

社会性・公共性に配慮した資産運用

資産運用の基本的な考え方

第一生命は、生命保険契約の持つ負債特性を考慮し、長期にわたる年金や保険金・給付金を安定的にお支払いすることを主眼として、ALM(Asset Liability Management:資産・負債総合管理)に基づく確定利付資産を中心とした資産運用を行っています。また、経営の健全性を十分に確保したうえで、許容できるリスクの範囲を考慮し、株式や外国証券を保有することで有利な資産運用にも努めています。加えて、きめ細かなリスク管理体制により、リスクのモニタリングと運用効率向上の両立を図っています。

※ALM：生命保険会社の場合、負債(保険契約)の特性に見合った資産を維持し、将来の保険金等の支払いに備えるために負債の金利変動リスクを定量的に把握、そのリスク特性に適合した資産運用を実施することをいいます。

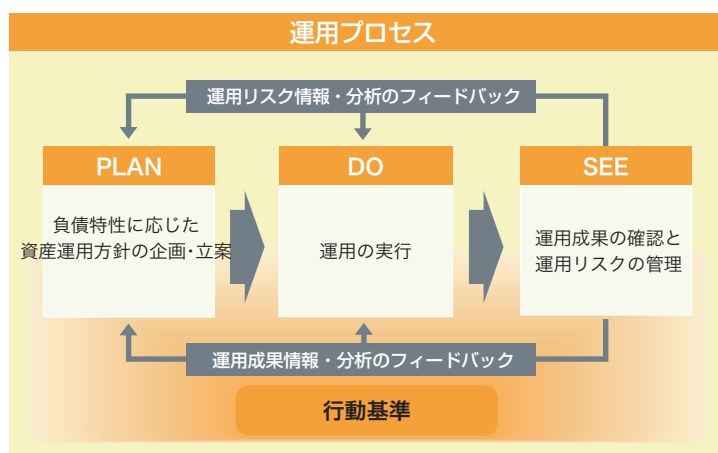
行動基準

環境への配慮を資産運用部門の各業務行動基準に明示し、下記のような投融資は取組まないなど、対象企業の社会的責任も判断基準のひとつとしています。

公序良俗に
反するもの

環境破壊、投機的な
土地取引を
助長するもの

管理サイクルを確立させた資産運用プロセス



当社の資産運用プロセスは、PLAN-DO-SEEのステップが基本です。このプロセスでは、運用成果および運用リスクに関する情報のフィードバックを通じて適宜分析と検証が加えられます。また、商品事業部門との連携が重要な要素として組み込まれており、常に負債情報を反映しながらALM運用を徹底する仕組みです。さらに、各投資業務で行動基準が定められ、対象企業が環境破壊を助長するような投融資を行っていないかなど、環境への配慮を判断基準のひとつとするよう定めています。

資産状況

平成19年度資産運用においては、中長期の資産運用方針に基づき、公社債などの確定利付資産中心の運用を継続しました。また、長期・超長期の公社債を中心とした債券の組入れを積極的に行い、ALMの推進と収益力の向上を図りました。なお、平成19年度はサブプライムローン問題等を契機とする一連の金融不安により、厳しい運用環境でしたが、きめ細かなリスク管理を継続し、サブプライムローン関連商品への直接投資による損失はきわめて限定的なものとなりました。

【資産の状況(一般勘定)】

